

2017  
第12号FREE  
PAPER

# 共生群利の もりをめざして

極楽の森

「極楽の森をよみがえらせよう！」イベント 下草刈りを終えて参加者全員での集合写真

人びとのことを広く深く思いやる、すぐれた人格者の行いは、  
 長い年月をかけて見定めて、はじめてそれと知られるもの。  
 名誉も報酬もとめない、まことにおくゆかしいその行いは、  
 いつか必ず、見るもたしかなあかしを、地上にしるし、  
 のちの世の人びとにあまねく恵みをほどこすもの。

『木を植えた男』ジャン・ジオノ著



「木を植える」ということ

総本山金剛峯寺 山口文章

これは、六十年あまり前から世界中で読み継がれてきた名作『木を植えた男』の冒頭に記された名言です。

この本の中で、誰のものかわからない荒れ果てた大地に男は木を植え続けます。家族を亡くした悲しみを抱えながら、自然の猛威にさらされながら、戦争が始まつても、その戦争が終つてからも来る日も来る日もドングリを選別し、植え続けました。

やがて荒れ果てた大地は蘇り、褐色の大地は新緑に塗り替えられました。そして、動物や植物の無数のいのちが宿りました。

ある日、なりゆきを知らない森林保護官がやってきて、その男に復活した森林を破壊しないように命令します。男は何も説明することもせず、自慢もせず、感謝されることもなく、木を植え続けるのです。

「木を植える」ということは自分のためではなく、「のちの世の人びとにあまねく恵みをほどこす」ことです。その結果は「長い年月をかけて見定めて、はじめてそれと知られるもの」なのです。それは、「名誉も報酬もとめない、まことにおくゆかしい」行いにほかなりません。

高野山の美林も代々の先徳たちが残された究極の恵みであります。そこには多くのいのちだけでなく、深い精神性と宗教性が充满しています。

私たちはこれからも木を植え、育て続けます。のちの世の人びとにあまねく恵みをほどこすために。すべてのものに安らぎをもたらすために。多くの皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。



高野山の豊かな森を後世に



©こうやくんPJ

# 参 与 会

高野山真言宗参与会の皆様にお力添えを頂き、境内林整備として奥之院参道の危険な枝の撤去や傾斜木へのワイヤー張り、枯木の伐採など安全にご参拝頂けるよう環境整備に取り組んでおります。この事業は平成28年度より5ヶ年計画で実施し、一の橋から奥之院燈籠堂まで



太さ12mmのワイヤーの張り替え作業の様子

の約1.6kmの参道を中心とし整備を続けていく予定です。

伐採した木は、待遇品に使える物は献木記念品などに使います。また、枝などは高野山寺領森林組合と協力し、バイオマスの燃料となるようチップにし三重県のバイオマス工場に搬入しております。

先人達が残してくれた資源を無駄にせず、社会貢献出来るよう環境整備に取り組んでまいります。



伐った枝を一ヶ所に集めチップにします。



金剛峯寺表門の「杉盛」

## 高野六木 杉のお話

高野山の地が昔ながらにして完  
美な大森林を保持してこられたのは決して偶然ではありません。

古来から「山林禁忌」(さんりんきんき)という15条にわたる決まりがあり、その中の1条に「禁植有利竹木」(きんしょくゆうりちくぼく)があります。

これは果樹・竹類などの栽培を厳禁し、農耕化の一切を禁じたもので、山上の荒廃や靈地の俗化を防ぐ為同時に山内森林環境の保護に大きな効果があつたとされています。

また山内の最重要樹種とされる「高野六木」(こうやりくぼく)の設定により保護されてきた巨木が残されています。

高野六木を代表する杉には奥之院の大杉林があり、樹齢は300年以上、最大で直径4m・樹高50メートルを超す杉が特別母樹林として保護されています。

一説によると馬の飲み水と馬草として大名参詣時の風習の名残と言われたり、「手水」として使われたなどありますが詳細は不明です。

特別な時期にだけみることができます。できるこの「杉盛」、寺院によって個性があります。お時間のある方はお寺を回って違いを見比べてみてはいかがでしょう。



金剛峯寺職員も参加しています。



ボランティアによる下草刈り

## 森 林 整 備 イ ベ ン ト

世界遺産・高野山の玄関口極楽橋に相応しい景観を楽しんでいたため、平成20年に地元の自治体や関係団体の皆さんと共に「極楽の橋森林整備プロジェクト実行委員会」を設立いたしました。

紅葉スポットとしてよみがえらせるため平成22年3月にはイロハモミジの苗木約200本が植樹されています。毎年たくさんのボランテ

ニアの参加をいただき、今年7月には第16回「極楽の森をよみがえらせよう!」下草刈りイベントを実施いたしました。

このイベントには金剛峯寺の職員も多数参加しています。

これからも年2回のイベントを金剛峯寺・南海電鉄・高野町役場等のホームページにて告知を行い、実施していく予定です。



大変な作業ですが、シャクナゲの大変な花を咲かせ皆様をお迎えする事が出来るのもこの地道な作業があつてこそなんですね。



## シ ケ ナ ゲ

山の女王と呼ばれるシャクナゲは高野町の花としても親しまれています。5月の中頃、本山前のしだれ櫻が見頃を終えたのを見計らつたように周辺の約900株のシャクナゲが見事な花を咲かせます。

このシャクナゲは毎年花柄摘みを行っています。樹勢を奪われるのを防ぐため、種になる前に速やかに摘み取って、養分を木に蓄積させるための作業です。

毎年きれいな花を咲かせ皆様をお迎えする事が出来るのもこの地道な作業があつてこそなんですね。

ちょっと  
かなしい  
はなし

## 梵鐘

## 鐘

心が洗われるようです。

そしてたくさんの方

お寺の鐘のことを「梵鐘(ぼんしょう)」と言います。「梵」は「清らかな、神聖な」を意味します。

お山では、夜明けの鐘で平穏な一日の祈りを捧げ、暮れの鐘に感謝して眠りにつく繰り返しの生活の中で鐘の音は無くてはならない存在です。

その中でも伽藍にある大塔の鐘は日本で4番目に大きいと云う意味で「高野四郎」と呼ばれています。

この鐘は平安時代前期か

ら高野山の歴史を刻み続け  
てきました。

大晦日の夜には、高野山の

最後の行事「御幣納め」が始まります。大松明を先頭に、  
伽藍近くの塔頭寺院より現れる御幣が、御社に奉納される様子は莊嚴かつ神神秘的で

「お寺の鐘はなぜ鳴るのか」というと、「一つには時報の代わりです。

昔は、ほとんどの人たちは時計を持つことがありませんでしたので、お寺で鐘をついて町の人たちに時を知らせました。今の時代いつでもじいでも時間を見ることがあります。

最近では鐘の音がうるさいと近隣からクレームがあり除夜の鐘をやめたり、時間を変更するお寺があるそうです。

ちょっとかなしいですね。



大晦日 伽藍御社「御幣納め」の様子

# 《献木について》

献木一口 2,000円

## 【記念品のご案内】

○1口(2,000円)

五色腕輪念珠一連

○5口(10,000円)

高野靈木カレンダー1本か、五色腕輪念珠5連どちらかを選択していただけます。



高野靈木を使用した  
干支カレンダーを作成しております。

〈限定 1,000本〉

3,500円

高野靈木干支カレンダー中西啓寶座主 短冊付



## お問い合わせ

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 金剛峯寺 山林部  
TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640

E-mail sanrinka@koyasan.or.jp

※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報ください。



この鐘は平安時代前期から高野山の歴史を刻み続け  
てきました。

大晦日の夜には、高野山の最後の行事「御幣納め」が始まります。大松明を先頭に、

伽藍近くの塔頭寺院より現れる御幣が、御社に奉納される様子は莊嚴かつ神神秘的で

## — 通 信 欄 —

皆様からの献木志納は祖山環境の維持に大切に使わせていただいております。今後とも引き続きご支援いただきますようよろしくお願ひいたします。またお山の維持管理についてご意見ご要望などございましたらぜひお聞かせください。また、この会報は春と秋の年2回、献木にご協力いただいた方にお届けしております。

春の会報には献木のパンフレット・振替用紙を同封させていただいております。会報送付が不要な方は、山林部にご連絡ください。

会報バックナンバーはこちら  
金剛峯寺H.Pでもご覧頂けます

<http://koya-forest.jp/blog/>

山林部ブログ

検索

## 『献木』お振込先

振替用紙をご送付致しますので、山林部までご連絡下さい。

郵便振替口座: 大阪 00930-6-61758

ゆうちょ銀行: ○九九支店 当0061758

加入者名: 宗教法人 金剛峯寺山林部